

# 稱讚 二五〇号

二〇二三年一〇月一日発行

善人なほもつて往生をとぐ、いはんや悪人をや。しかるを世のひとつねにいはく、「悪人なほ往生す、いかにいはんや善人をや」。この条、一旦そのいはれあるに似たれども、本願他力の意趣にそむけり。そのゆゑは、自力作善のひとは、ひとへに他力をたのむところかけたるあひだ、弥陀の本願にあらず。しかれども、自力のころをひるがへして、他力をたのみたてまつれば、真実報土の往生をとぐるなり。煩惱具足のわれらは、いづれの行ニテも生死をはなるることあるべからざるを、あはれみたまひて願をおこしたまふ本意、悪人成仏のためなれば、他力をたのみたてまつる悪人、もつとも往生の正因なり。よつて善人だにこそ往生すれ、まして悪人はと、仰せ候ひき。

〈『歎異抄』第三条〉

発行 浄土真宗本願寺派 稱讚寺

〒二二一〇〇七五

東京都足立区一ツ家三丁目五番二〇号

TEL 〇三―五二四二―二〇二五

FAX 〇三―五二四二―二〇二六

HP [shousanji.com](http://shousanji.com)



二〇二三年九月二十九日 中秋の名月 佐多から  
三年連続満月 次に満月を迎えるのは七年後だそうです

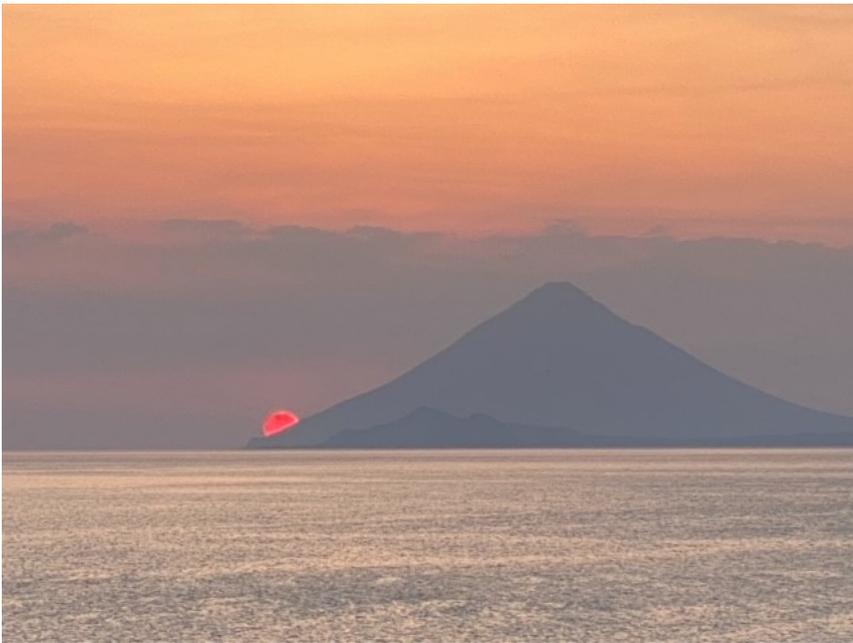
朝日新聞に「新しい領解文」の論争についてのカット見出しに「お家騒動」と書いてあり、記事の中で、仏教学者の末木文美士氏(東大名誉教授)のコメントが掲載されておりました。末木氏は「新しい領解文は、親鸞の教えに特徴的な、『自力』を否定し、仏の力で自分が変えられていくという『他力』の要素が薄い。反対の声が起るのも無理はない」と指摘し、「だが、この一〇年ほど、本願寺派は真宗教学を外に開こうと努力を重ねてきた。新しい領解文はその表れの一つではないか」とみる。と述べられていました。『新しい領解文』では、「信心を獲れば仏さまの大きなお慈悲を感じ、そのご恩に応える生き方が出来るようになると明示しているのです。四〇年ほど前「信心の社会性」が問われはじめたところから「ただ念仏申すだけ」という消極的な姿勢が問われていました。十年前から現代社会の課題を他人事としない(但し、差別・平和問題への取り組みは逆に表面化しなくなった)教団人の姿勢を示すようになりました。「私たちのちかい」「新しい領解文」が発表されて、このように社会貢献することが信心を正しく頂いた者であり、誰もがそうあれかしということが重視されるようになったらと、危惧することです。心身や年齢、環境もあって、取り組めないお同行もいっぱい居られ、その方が、一層「他力をたのみたる悪人」の自覚があらわれるのかもしれませんが。やれもしてない私自身は、社会貢献しておられる方を尊ぶことは忘れず、間違っても批判しないようにしたいと思います。

# 秋季彼岸会法要 厳修

二〇二三年九月三日（土）

「今秋のお彼岸お中日は、夕日を望むことができませんでした。」

この度は、安達さん、中木原さん、池田さん、福富さん、山下さんの五人の方々がご参拝くださり、ご一緒に、『仏説無量寿経』をおつと



めいたしました。そう度々、おつとめするお経ではありませんので、たどたどしいですが、ご一緒に阿弥陀さまの四十八願を聞かせていただきます。

〈お話し〉

浄土真宗本願寺派では、「ビハーラ活動」を推進しておりますが、私が所属する「東京ビハーラ」もそうですが、そのはじめりは、ターミナルケアへのアプローチでした。医学や福祉関係とのチームケアとして、宗教として携わるべきところは、スピリチュアリティ・スピリチュアルな面であると言われてきました。

先日、九月二日、築地本願寺で、東京ビハーラと社会福祉推進協議会東京教区支部の共催で島菌進氏（東京大学大学院人文社会科学系研究科教授・上智大学グリーンケア研究所長）に講題「新たなケアの文化と宗教・スピリチュアリティ」についての講演頂きました。

先生に、「スピリチュア・ペイン」とは、日本語ではどう訳されますかと質問したところ、これまでは「霊性」とか「宗教的」「根源的」とか訳されておりますが、私的には「機の深信」と捉えられると思っておりますとお応えになりました。

「機の深信」とは、浄土真宗では、「二種深信」と言っており、信心の中身を説いたものです。『教行信証』（信巻）に、善導大師の文（『観経四帖疏』（散善義）を引用して、

一つには、決定して深く、自身は現にこれ

罪悪生死の凡夫、曠劫よりこのかたつねに没し、つねに流転して、出離の縁あることなしと信ず。二つには、決定して深く、かの阿弥陀仏の四十八願は衆生を摂受して、疑なく慮りなくかの願力に乗じて、さだめて往生を得と信ず。

とある内、「一つには」が「機の深信」であり、「二つには」が「法の深信」であります。が、これは別々にあるのではなく、「法の深信」があるからこそ、「機の深信」があるわけで、阿弥陀さまの大慈悲・大智慧の光に照らされて、自身の罪悪深重の凡夫性に気づかされるのです。単独で、「機の深信」があるのではないし、「ペイン＝苦」とは一概に言えないように思えました。

「スピリチュアリティ・スピリチュアル」は、近代医学の用語として使われている言葉でありWHO（国際保健機関）では、健康の定義を

- 1 身体的
  - 2 精神的
  - 3 社会的
  - 4 スピリチュアル的
- の四つに区分され、それぞれの苦しみに対してケアがあり、この四つを総合的にケアする全人的ケアの必要性を提示しております。
- しかし、一般的には、見えないもの、霊的なものによる癒やしとして用いられているように、大変な誤解を招いていることも事実です。

スピリチュアリティ・スピリチュアルを日本語

に置き換えできないと、私自身はスピリチュアリティ・スピリチュアルケアだのペインだのと言われても「根源的な」と言われても、捉えられないでおりました。

海外の方はスピリチュアリティ・スピリチュアルを「普通の真理」とイメージするようです。

スピリチュアリティ・スピリチュアルを「普通の真理」と捉えるならば、浄土真宗として、「普通の真理」とは何かと言えば、阿弥陀さまが「必ず、あなたを仏にします」と聞き做って参ったことではなかったでしょうか。

『教行信証』総序に

噫、弘誓の強縁、多生にも値ひがたく、真実の淨信、億劫にも獲がたし。遇、行信を獲ば、遠く宿縁を慶べ。もしまたこのたび疑網に覆蔽せらば、かへつてまた曠劫を經歷せん。誠なるかな、撰取不捨の真言、超世希有の正法、聞思して遲慮することなかれ。

とあり、スピリチュアルケアとは、まさしく阿弥陀さまのご本願のことではないでしょうか。

仏教で御釈迦様がお応えにならなかつたことを「無記」と言われております。

その譬話として、「毒矢の譬」があります。概要は、

マールンクヤプトラという弟子が釈尊に対して、「世界は未来永劫に存在するのでしょうか」「世界には果てがあるのでしょうか」「如来は死後も存在するのでしょうか」などの疑問をなげかけました。そして、これらの問いに答え

てくれないならば、自分は還俗しますといいました。これに対して、釈尊は次のようにお答えになります。「あなたの疑問に対する答えを求めないのであれば、あなたはその答えを得る前に命が尽きてしまうでしょう。たとえば、ある人が毒矢で射られたので、みんなが心配して急いで医者を呼んできて、医者がまず矢を抜こうとしたら、その男が叫んだ。『この矢はどういう人が射たのか、どんな氏名の人か、背の高い人が低い人か、町の人か村の人か、これらのことがわかるまではこの矢を抜いてはならない。私はまずそれを知りたい』というならば、その男の命はなくなってしまうでしょう。あなたの問いはそれと同じなのです。もし世界は永遠に存在するとかしないとか応えることができる人がいたとしても、その人にも生老病死の苦しみがあり、さまざまに憂いや悩みがあるので、あなたの問いは、人間の本当の苦しみや悩みとは関係のないことです。わたしは説くべきことのみを説きます」と。(本願寺HPより)

マールンクヤプトラという弟子の問いは、「苦」とは全く関係ないように思えますが、一方、いくら思考しても、私たちには分からないもののようなのです。

どの宗教も、この世で私の体が減したら、どうなるかということが課題であり、「苦しみ」の普通の真理(根源)ではないでしょうか。それがスピリチュアルペインであり、自らその苦しみを解放することは難しい故、生きている間の生老病死の苦しみを解決する「現世利益」に目を

そらしてきたのではないのでしょうか。いくら考えても、いくら実践しても、「生死の苦海」を乗り越えることができない私たちだからこそ、阿弥陀さまが私に任せてくださいと「南無阿弥陀仏」と呼び続けてこられたことかと思えます。

しかし、ややもすると、私たちは、スピリチュアルペインを自ら解決しようとしているのかなと思ってしまう。

スピリチュアルケアと名乗っての実際に実践しておられる方は、確かに尊いことのように思えるのですが、仏教から遠のいていくばかりな気がします。

新潟県立がんセンター新潟病院看護部の「終末期患者から学んだスピリチュアルペインとケアー患者との会話場面を通して」の研究報告では、

結果及び考察

患者が語ったスピリチュアルペインは六項目のカテゴリーと、一四項目のサブカテゴリーに分類された。また看護師が関わりをしたと思われるスピリチュアルケアは六項目のカテゴリーと九項目のサブカテゴリーに分類された。

## 一 スピリチュアルペイン

### 1 生きながらえるつらさ

生きながらえるつらさには、「残された時間を過ごすつらさ」「癌と闘い続けるつらさ」「世話になるつらさ」が含まれる。「これじゃ生きる屍だ」とは、ただ息をしているだけの状態に、生きる意味をなくし、残された時間を過ごすつらさ。「いかに悪い





# 「報恩の念仏」とは

御身にかぎりず念仏申さんひとびとは、わが御身の料はおぼしめさずとも、朝家の御ため国民のために念仏を申しあはせたまひ候はば、めでたう候ふべし。往生を不定におぼしめさんひととは、まづわが身の往生をおぼしめして、御念仏候ふべし。わが身の往生一定とおぼしめさんひととは、仏の御恩をおぼしめさんひとに、御報恩のために御念仏ころにいれて申して、世のなか安穩なれ、仏法ひろまれとおぼしめすべしとぞ、おぼえ候ふ。

『親鸞聖人御消息』二五通  
『註釈版聖典』七八四頁

よく私たちは「報恩の念仏」と申しております。特に蓮如上人が「信心正因 称名報恩」と仰ったことを、今日まで継承してあることであります。

『拝読 浄土真宗のみ教え』の中で、

## 報恩の念仏

阿弥陀如来は、迷いのなかにある私たちを憐れみ悲しまれ、そのままに救いとるとはたらかれてる。浄土真宗の救いは、この如来のほたらきを信じる心一つで定まり、念仏は救われるよろこびが声となつてあらわれ出たものである。

親鸞聖人は仰せになる。

ただよくつねに如来の号を称して  
大悲弘誓の恩を報ずべしといへり

如来は私たちを救いとして見返りを求めることがない。はかりしれない如来のご恩は、決して返すことのできない大いなる恵みである。私たちは、ただそのご恩をよろこび、感謝の思いを念仏の声にあらわすばかりである。これを報恩の念仏という。

救いのよろこびを恵まれた者は、報恩の思いから、つねに南無阿弥陀仏と念仏申すべきである。

とあり、阿弥陀さまのご恩に感謝し、報いる方

途として、お念仏申すことを勧められているように思えます。

私たちは、自力の念仏では、仏に成れないとも聞き做つて参りました。「称名報恩」と言う言い方も、自力の念仏とは異なり、あくまでも、阿弥陀さまへの感謝の思いの発露として受け取れるようになったことなのかと思ひます。

これまで、「報」(むくいる)の主語は、私のことしか、捉えておりませんでした。

しかし、別の主語があり、それが本来であるのではないかとも思うことがあります。

その主語というのは、阿弥陀如来であります。

「報土」と、阿弥陀さまのお浄土のことを現します。「土に報いる」という意味ではありません。法蔵菩薩が五劫の思惟をし、永劫の修行をして、誓願が成就した結果、誓願に相応した国が出来たことを、形としてあらわしたもので、「阿弥陀さまのご本願に応えた国土」と言う意味であります。

一方、「報恩」とは、阿弥陀さまの「ご恩」に相應するという、私の側のはからいが、特に伝承されてきたことではありませんが、冒頭の『親鸞聖人御消息』の一文にあります「御報恩」を解釈すれば、阿弥陀さまのはからいとしての「報恩」と言えないでしようか。

「阿弥陀さまの恩徳が報われたもの」、つまり「阿弥陀さまの一切の衆生を必ず仏にします」とのお心が形として現れた「もの」とは、「南無阿弥陀仏」のお念仏ということではないでしようか。

「報恩の念仏」とは、お念仏は阿弥陀さまの恩徳そのものであると言うことだと思えます。「わが身の往生一定とおぼしめさんひとは、御報恩のために御念仏にこころにいらして申して、世のなか安穩なれ、仏法ひろまれとおぼしめすべしとぞ、おぼえ候ふ。」とは、「ご自身の往生は間違いないとご信心を頂いたとお思いになっておられる方は、御報恩のために（阿弥陀さまの一切の衆生を必ず仏にしますとの）本願が世間に伝わり広まるように、南無阿弥陀仏との阿弥陀さまの呼び声と心得て、お念仏申し、世の中、世の人々が、安穩であり、阿弥陀さまのお心（ご本願）が広がることをお思いになられることと、うかがって参りました」と読めるのではないでしようか。

御和讃には、ご信心を頂いた方は、阿弥陀さまの恩徳を報ずるのだと謳われております。

仏慧功徳をほめしめて  
十方の有縁にきかしめん  
信心すでにえんひとは  
つねに仏恩報ずべし

（『浄土和讃』讚阿弥陀偈讚）

弥陀の尊号となへつつ

信楽まことにうるひとは  
憶念の心つねにして  
仏恩報ずるおもひあり

釈迦・弥陀の慈悲よりぞ

願作仏心はえしめたる  
信心の智慧にいらてこそ  
仏恩報ずる身とはなれ

（『正像末和讃』三時讚）

他力の信をえんひとは

仏恩報ぜんためにとて

如来二種の回向を

十方にひとしくひろむべし

（『正像末和讃』聖徳奉讚）

等々です。そして、よく詠われる「恩徳讚」

如来大悲の恩徳は  
身を粉にしても報ずべし  
師主知識の恩徳も  
骨を砕きても謝すべし

（『正像末和讃』誠疑讚）

は、歌う度、聞く度、阿弥陀さまの徳、阿弥陀さまへの恩を肌で感じあじわっているだろうか。親鸞聖人をはじめ、私にお念仏を伝えてくださった先人の方々の徳を、その恩を感じているだろうか、自問して首を振るしかない私です。ご信心を頂いた方は、「現生十種の益」があります。その中、八番目に、「知恩報徳の益」とあります。阿弥陀さまをはじめ、様々なご恩を知り尽くし、その徳と恩に相應えられる人と成れる？ということなのでしょう。しかし、私ごときは、「往生を不定におぼしめさんひとは、まづわが身の往生をおぼしめして、御念仏候ふべし。」と、私が称える念仏ですが、「御念仏（阿弥陀さまの呼び声・阿弥陀さまからの報恩の念仏）と思出し思出ししながら、お念仏申して参る一人に過ぎない者です。」

# 稱讚寺一〇月行事予定



六日(金) のんのん法話会 午後二時

一六日(月) のんのん法話会 午後二時

二六日(木) のんのん法話会 午後二時

二七日(金)・三〇日(月)

鹿兒島・稱讚寺永代経法要のため、不在  
 になりましてご了承ください。

きび ことば われ かせ  
 厳し言葉に我に返り  
 あま ことば われ わす  
 其言葉に我を忘れる

二〇二三年「心のともしび」十月カレンダーより

## 築地本願寺2023年報恩講の日程

11月11日(土) 14:00 速夜法要 17:00 初夜勤行  
 11月12日(日) 6:30 晨朝勤行 10:00 日中法要 14:00 速夜法要 17:00 初夜勤行  
 11月13日(月) 6:30 晨朝勤行 10:00 日中法要 14:00 速夜法要 17:00 初夜勤行  
 11月14日(火) 6:30 晨朝勤行 10:00 日中法要 14:00 速夜法要 17:00 初夜勤行  
 11月15日(水) 6:30 晨朝勤行 10:00 日中法要 14:00 大速夜法要 17:00 初夜勤行  
 11月16日(木) 6:30 晨朝勤行 10:00 ご満座法要

※布教 朝戸臣統氏(11日速夜~13日速夜) 清岡隆文氏(14日晨朝~16日晨朝)

※関連行事 ○仏教何でも彼んでも相談(12日~15日 10:00~16:00)

○御斎膳(抹茶席付) 11日~16日 懇志額 3,000円以上 会場 紫雲(第一伝道会館)

○御斎弁当 12日~16日 懇志額 2,000円以上 会場 蓮華殿・瑞鳳(第二伝道会館)

○パイプオルガン演奏 12日12:45~ ○楽友会コーラス 13日12:45

○通夜布教 15日(水)20:30~16日(木)5:40 会場 間法ホール

○報恩講コンサート 10月30日(月)13:00 ○園児の報恩講 11月8日(水)11:00

○めぐみの参拝式 19日・23日(11:00/13:00/15:00)

※帰敬式 詳細お問い合わせ 築地本願寺コンタクトセンター 0120-792-048

## 編集後記(愚案)

羽鳥さんのモーニングショウで、認知症の特集をしていました。認知症のアルツハイマー病の早期段階・比較的軽微な患者さんに有効とされる新薬「レカネマブ」を厚生労働省が認可したというところで、認知症治療の大きな一歩となると、報じておりました。

長嶋氏は、自身、家族のことも、何もかも忘れてしまうこの病気にはなりたくないと言っています。若年性認知症を患った方が、診断された最初は、引きこもってしまったが、気づかされたことも多いと仰った(早期治療・軽度段階でもあることによると思われるが)。これを聞いた長嶋氏の思いは少し変わったのだろうか、その後のコメントを聞いていないのでわからない。玉川氏は、大きな一歩が、これから二歩三歩となっていく。そして、認知症も含めて多くの病気は、老化和比例している。今、老化を抑える研究も進んでおり、将来的には、病気にならない(少なくとも)ことが期待されるとまで、コメントしていました。

病気を治していく医学が発達していくことは、大賛成であり、期待大であるのですが、やはり、世間は、私たち大衆は、不老長寿こそ幸せな生き方と思つてやまないでいるのでしょうか。

老化を抑えるとは、お金もかかるのでしょうか、更なる差別が生れるのでしょうか、生老病死の苦を更に考えないようにしてしまいかねません。仏教の教えが単なる古文化してしまいかねません。

それでも、老化を防げても、病気が完治しても、いつかは誰もが死を迎えるのですから、そのことに視点をおいた、阿弥陀さまのご本願を聞き続けて参りましょう。

門信徒会費 6千円 お預かり管理費 5千円 永代使用積立金 5千円から